

教育研究業績書

令和 5 年 5 月 1 日
氏名 平川 千津子

研究分野	研究内容のキーワード	
看護学	新人看護師教育 職業選択動機 学習意欲	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例	平成28年 平成30年3月 令和2年4月～ 令和4年4月～	栄養に関する問題を作成しWEB上に掲載し、学習できるようにした（令和2年3月まで） 各部署のラウンド及び随時、新人看護職員からの相談を受け付けた（令和2年3月まで） LINE 及び随時学生からの相談を受け付けている オフィスアワーを設け学生の相談や授業に関する質問を受け付けている
2. 作成した教科書、教材	平成30年～令和元年4月 令和2年～ 令和4年4月～	新人看護職員の看護技術の到達度のとりまとめ及び評価した教材を作成し研修において活用した（令和元年4月まで） コミュニケーションの授業においてコミュニケーション演習の教材を作成し、授業において活用している 看護学、実技に関する教材を作成し、授業において活用している
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
4. 実務の経験を有する者についての特記事項	平成30年4月～令和元年4月 令和2年 令和2年4月	新人看護職員への看護技術研修講師及び看護過程研修講師を行った 看護部のキャリアラダー作成に携わった 実習調整者として臨地実習の年間計画立案、施設との受け入れ交渉、打ち合わせ、評価会議等の調整、学生の臨地実習指導を行った。また、小児・母性実習を担当し学生へのオリエンテーション、看護技術指導、臨地実習指導を行った。
5. その他		特記事項なし

職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許	平成2年4月 平成10年3月 平成14年 平成20年	看護師免許（登録番号：683153） 厚生省看護研修研究センター看護教員養成課程看護師教員専攻研修修了 認定看護管理者教育課程ファーストレベル終了 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士（認定番号：第 N10230 号）
2. 特許等		特記事項なし
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	平成25年～27年 平成28年 平成29年 令和元年 令和2年	佐賀県看護協会 教育委員 研修支援、教育計画の作成 佐賀県看護協会主催 看護共通研修会講師 佐賀県看護協会主催 看護共通研修会講師 佐賀県主催、佐賀県看護協会実施 新人看護職員研修教育担当者・実地指導者研修会講師 佐賀県主催、佐賀県看護協会実施新人看護職員研修教育担当者・実地指導者研修会講師
4. その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 1. 新人看護師教育に対するスタッフ看護師の認識と行動（学位論文）	単	平成24年3月	佐賀大学大学院医学系研究科看護学論文	新人看護師教育に携わる3年目以上の看護師176名を対象に新人看護師教育に対する認識と行動について調査を行った。その結果、看護師経験年数が少ない看護師は新人看護師に対し、情意的な配慮が重要であると認識していた。看護師経験年数が多い看護師はスタッフ間での調整行動ができていると評価しており、経験年数を考慮したうえでの役割を明確にした指導体制の確立が示唆された。

<p>(その他)</p> <p>1. 新人看護師教育に対するスタッフ看護師の認識と行動の経験年数による比較 (査読付)</p>	共	平成26年3月	平成25年度第32回佐賀県看護研究学会抄録集	新人看護師教育に携わる3年目以上の看護師176名を対象に新人看護師教育に対する認識と行動の経験年数による差異を明らかにし、今後の新人看護師教育のあり方を検討した結果、経験年数6～10年の看護師は情意的な配慮の認識が高く、経験年数6～10年、16年～20年の看護師は調整的な役割行動の評価が高いことが分かった。経験年数によって担える役割が異なっていることを考慮し、教育体制を整えることの重要性が示唆された。
<p>2. 当院の病棟単位NSTによる介入状況と課題について</p>	共	平成28年3月	第41回九州代謝・栄養研究会	<p>15病棟中4病棟での患者回診状況、患者への生活行動改善や栄養指導、病棟看護師への経管栄養等の技術教育実施、医師への輸液組成の提案を行い、遂行率の調査を行った。</p> <p>介入患者数345名、回診延べ1031件、提案件数512件で遂行率は72.7%であった。特に脂肪乳剤投与に関する遂行率が低かった。また、患者の食生活改善や食事の重要性への認識の低さ、疾病予防についての意識の低さも考えられ、栄養に対する知識の普及が必要と考えられた。</p> <p>(執筆担当部分：病棟での栄養指導、食生活改善教育、経管栄養技術指導等の実施および遂行状況と課題)</p> <p>椀美紗子、小根森智子、平川千津子、仲真美恵、岡真以子、松田知子、佐藤清治（計7名）</p>
<p>3. イントラネットを利用したNSTからの情報発信「NSTクイズ」の効果について</p>	共	平成29年2月	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会抄録集	<p>病院全職員の栄養への関心を高め、知識の普及を目的として、病院のネットワークを利用し、食品に含まれる栄養素や食生活と疾病の関係、口腔ケアに関する等の栄養クイズを発信した。毎月解答率、正解率をもとに勉強会の内容を検討し実施した結果、栄養に関する知識普及や生活習慣改善への一助となった。</p>

<p>4. イントラネットを利用したNSTからの情報発信「NSTクイズ」の効果について(第2報)</p>	<p>共</p>	<p>平成31年2月</p>	<p>第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会抄録集</p>	<p>(執筆担当部分：クイズ作成の過程、実施勉強会実施の実際) 椛美紗子、<u>平川千津子</u>、仲真美恵、香月万葉、松田知子、佐藤清治 (計6名)</p> <p>病院全職員の栄養への関心を高め、知識の普及を目的として、病院のネットワークを利用した取り組みの第2報。アンケートにより、医療職以外の職員も栄養に関する関心が高まった、食事内容にも気を付けるようになった、食生活に気をつけると病気の予防にもつながるなどの回答がえられた。今後もより多くの職員に関心を持ってもらうよう取り組んでいく必要がある。</p> <p>(執筆担当部分：クイズ作成・実施、職員の意識調査) 牛島浩子、椛美紗子、<u>平川千津子</u>、仲真美恵、松田知子、小根森智子、佐藤清治 (計7名)</p>
<p>5. NSTが介入した褥瘡手術患者における栄養管理の現状について</p>	<p>共</p>	<p>平成31年2月</p>	<p>第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会抄録集</p>	<p>褥瘡患者は入院時から栄養状態が不良な場合が多く、術後の回復遅延も予測される。そのため、入院時より栄養評価を行い、タンパク質や亜鉛製剤など術前の栄養状態の改善および術後の回復に向けての栄養提案を行ってきた。また病棟看護師との情報交換を行い、食事内容の観察、体重測定の依頼、必要性の説明等を行った。</p> <p>(執筆担当部分：病棟看護師との情報交換、依頼と指導) 椛美紗子、牛島圭太、<u>平川千津子</u>、仲真美恵、松田知子、牛島浩子、小根森智子、佐藤清治 (計8名)</p>